

G-9 被服製作可能度の研究(才5報)一養護学校(女子低知能者)における
刺しゅう学習を手がかりとして一仙名白百合短大 田山仁子 鈴木良子

目的 才4報の結果として学年ごとに能力別グループが生じ、それぞれ能力に応じた学習に意欲を見せているが、グループの一つに重度の重複障害(手指)の生徒がおり、この人達のため別にカリキュラムを作り指導をおこなっているので報告する。

方法 はじめは、手指の協応訓練(折る、切る、紐燃り、糸通し、糸結び、書き方)に重点をおき順次布と針と糸を使用することに移行してゆく。刺しゅうとしては、はじめにスエーデン刺しゅうをとりあげた。材料として用布は綿のベンガルクロス(1cm=4×4)。針はスエーデン刺しゅう針の犬・刺しゅう糸はオリンパス25番6本どりとした。

結果 3年目はスエーデン刺しゅうを終り再びOutline stitchにもどった。その後専攻科₁1年又は2年周在学し学習を続けることによって図案通り完全に刺すことが可能となった。

現在は精進者のための授産所で作業員として明るくたくましく生産活動に参加している。